

令和二年度 学校評価 勇志国際高等学校

勇志の心	国を愛し 郷土を愛し 人を愛する
教育方針	親孝行する青少年たれ 志ある人間たれ 誇りある日本人たれ 役に立つ国民たれ 尊敬される国際人たれ
指導方針	生徒の長所を認め長所を伸ばすことを、生徒指導に当たっての指針とする。短所を指摘し矯正する方法は採用しない。

評価基準	A・・・ほぼ達成	B・・・概ね達成	C・・・やや不十分	D・・・不十分
------	----------	----------	-----------	---------

評価項目	具体的方策	達成状況	評価	次年度への改善点
学習指導 1 道徳教育の確立	①科目として教育課程に入れている。 「高校生のための道徳 この世にダメな人間なんて一人もない!!」を道徳教科書として使用している。	①開校以来、校長自ら道徳の授業を行っている。充実した道徳教育ができています。	A	日本人としての誇りを持つ生徒を育成するために、日本の正しい歴史・道徳教育を今後も行っていく。
2 スクーリングの充実	②本校で実施できなかったスクーリングを、各学習センターの登校型と熊本での年度末の集中型で代替実施した。	②登校型スクーリングについては、本校12回、千葉学習センター53回、福岡学習センター50回、熊本学習センター26回実施。	A	コロナウィルスの影響で変更をやむを得ない点も多くあった。令和三年度の集中型スクーリングは11月以降実施予定であるが、あらゆることを想定し、柔軟に対応していく。

3 ネット活用の充実	<p>③無料で受講できるネットライブ授業を配信している。</p> <p>授業以外でも各種ネット活用の有効利用を図る。</p>	<p>③令和二年度ネット授業の延べ参加人数は7177名 (前年度は8740名)である。</p> <p>ネットで生徒・保護者面談、ガイダンス、ホームルームも実施した。</p>	B	<p>ネット授業延べ参加人数は前年度より減少。1人でも多くの生徒が参加するように授業内容や時間割等、常に創意工夫を重ねる。</p> <p>自宅から参加するネット生を定着させるため、<b>Slack</b>や<b>Classroom</b>アプリでのクラス管理を強化していく。</p>
4 各種検定受験指導	<p>④科目として漢字検定、英語検定、パソコン検定を教育課程に入れている。各種検定合格を目標設定し、受験を勧める。</p> <p>ビジネスコースの受講者を増やし、簿記検定を合格させる。</p>	<p>④令和二年度の各種検定は受験者530名、合格者284名である。 (前年度は受験者578名、合格者268名)</p> <p>上位級の合格 英語検定2級、漢字検定2級、日本語検定2級、秘書検定2級、ワープロ検定1級、情報処理技能検定1級、2級、数理技能検定2級、ニュース検定2級、パソコンスピード検定2級、日商簿記検定2級</p>	B	<p>前年度と比較すると、受験者は減ったが合格率が12%の伸びをみせている。検定に対する意識を高め、全体の受験者を増やし、合格率をアップさせる。</p> <p>上位級の合格者を増やす。</p>
5 弁論大会	<p>⑤平成28年度までは熊本学習センターのみで開催していたが、平成29年度から他学習センターも参加し全国弁論大会として開催している。令和二年度は第8回弁論大会を開催した。</p>	<p>⑤天草本校、熊本、福岡、千葉の4ヶ所をネット中継し、リアルタイムの弁論大会を実施した。本選は11人の弁士が発表した。</p>	A	<p>発表した生徒だけでなく、視聴した生徒にも成長の場となった。次年度は更なるレベルアップを図る。</p>

キャリア教育				
1 進路指導の充実	①学年に応じた進路ガイダンス等、継続的な進路指導を行う。 進学希望者には進学コースで1, 2年生から受験指導を行う。	①令和二年度の進学希望者の決定率は90%、就職希望者の決定率は85%、進路決定率は88%である。進学コースからの大学合格は徐々に実績を出している。	A	国公立大学、上位私立大学の現役合格実績を出す。 指定校推薦を有効に使う。 進学コースを「ネット予備校」という名称に変更。専任職員を選定し、内容の充実を図る。
2 職業観の育成	②礼儀・マナー講座を実施している。インターンシップを奨励する。	②通信制のため、通学コース以外の遠隔地生徒に対し継続した指導が難しい。	B	就職はあくまでも正雇用をめざす。 インターンシップ参加者を増やす。 ネット生には新たなプログラムで指導を行う。
生徒指導				
1 いじめ防止	①【いじめ対応に関する基本原則】 ・いじめを絶対許さない学校 ・教職員はいじめを未然に防ぐ深い洞察力と継続した行動力を持つ ・生徒はいじめを見たら止める勇気を持つ	①いじめがあった場合、全教職員で情報を共有し、一丸となって継続した指導を行う。 いじめの実態把握と防止のためにアンケートを実施。 ネットいじめに注意していく。	A	いじめに対しては全教職員が毅然と対応し、いじめを許さない校風を構築する。 情報共有システムの一層の充実を図る。
2 SNS指導	②ソーシャルメディアガイドラインに沿って、定期的に注意を呼びかける。 業者と提携し、検索・監視を実施。 業者によるリテラシー講座を実施。	②業者からの報告等で、不適切な書き込みが発覚した場合、削除及び今後への指導を行う。	A	不適切な書き込み等から生徒を守るために、次年度も業者と提携する。 業者によるネットリテラシー講座を実施する。

3親孝行の奨励	③「親孝行する青少年たれ」を実践するため、平成26年度から「親孝行コンクール」を実施している。	③令和二年度は「第7回親孝行・絆作文コンクール」を実施し、685名の応募があった。大賞、奨励賞、努力賞で表彰した。	A	次年度は750名以上の応募をめざす。親孝行する生徒を育成する。
安全管理	集中スクーリングは宿泊を伴うため、常に生徒の病気、怪我、事故に注意する。 本校教職員は地域の消防団に入っている。	開校以来、大きな怪我、事故のないスクーリングが継続できている。 毎日の清掃や敷地内の危険物の除去など環境整備も怠らない。 避難訓練を実施した。	A	災害はいつ起きるかわからない。スクーリング中に起きることも有り得る。油断することなく、生徒の安全を第一に次年度も無事故をめざす。 平常時から災害等に備えた役割分担を明確にしておく。
情報提供	学校通信「ポプラ通信」を毎月発行し、家庭に郵送している。 HPでも随時、情報提供を行っている。 メール配信も行っている。	ポプラ通信を毎月楽しみにしている生徒、保護者も多い。 HPの迅速な更新を行なっている。 アドレス等の生徒個人情報徹底管理している。	A	令和3年度からリニューアルし、紙面を拡大、カラー版とする。 次年度も引き続き各種情報提供をしていく。 ジメール、スラック等も活用する。
地域との連携	「絆の日」では教職員・生徒と地域の皆様と共に清掃活動を行っている。 地域の各種行事へ参加している。	東日本大震災以降、毎月11日を中心に「絆の日」として清掃活動を行っている。既に102回の活動を終えた。	A	今まで以上に地域の皆様に対する感謝の念を忘れず、取り組んでいく。

		熊本地震以降、絆が強くなった。		
教職員研修	<p>校長による勉強会を毎月実施している。研修旅行を計画していたが、コロナウィルスの影響で中止とした。</p> <p><b>【勇志国際高校の教職員の心得】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 教育者は、聖職者である。</li> <li>2 教育者は、自らを鍛錬し、生徒に対しては長所を伸ばす指導法を基本とする。</li> <li>3 教育者は、自己責任を行動原理とする。</li> <li>4 教育者は、学校の健全な発展に努める。</li> <li>5 教育者は、教育は国家百年の大計と心得る。</li> <li>6 教育者は、生徒の教育を本位として行動する。</li> <li>7 教育者は、教育を通して利他の精神に基づく文化を創造する。</li> <li>8 教育者は、国を愛し、郷土を愛し、人を愛する。</li> <li>9 教育者は、正しい歴史観と国家観が教育の基本と認識する。</li> <li>10 教育者は、問題行動に対しては、毅然とした態度で適切な指導を行う。</li> </ol>	<p>教職員の意識が確実に向上している。勉強会はネット会議システムを利用している。</p> <p>全教職員が心得を正しく理解し、実践できている。</p>	A	<p>次年度も同様に勉強会を実施する。</p> <p>全教職員が使命と責任を果たせるように努力を続ける。</p>